

# 寅さん歩 その22

## 東京2020 聖火リレー-12

### ～山形県・秋田県～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工式を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場します。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔山形県〕 2020年6月7日～8日

聖火リレーコースは6月7日 西川町～山形市、8日 天童市～酒田市です。

寅次郎、1999年(平成11年)9月「第7回奥の細道 鳥海ツーデーマーチ」及び

2000年(平成12年)9月「第8回」及び2001年(平成13年)9月「第9回」で3回遊佐を訪れています。

仕事を終えて東京駅から夜行高速バスで芭蕉奥の細道の北限の地 象潟(きさかた)駅まで行き、JRで遊佐駅へ。会場までは大会のバスがあります。大会1日目は「緑と庄内砂丘日本海コース」で日本海と波打ち寄せる庄内砂丘の大自然に浸りました。海の近くにあった自然岩に刻まれた十六羅漢岩は見ごたえがあります。宿からの日本海の夕陽も見事でした。

2日目は「水と鳥海山麓 自然コース」で訪れた出羽国一之宮 鳥海山信仰の登山口として栄えた鳥海山大物忌神社はひっそりと静けさの中で時間が止まったようでした。その後は、まるで人間の胸腹から突然に流れ落ちているように斜面の途中から二本の滝が姿を見せる胸腹滝の美味しい水で一息つきました。とにかく暑い中でのウォーキングで、一緒にあえぎながら上った神奈川県の仲間とはその後の例会で再会する度に話題にするほどの暑さでした。上りながら見た鳥海山(写真上)と下りながら見た稲穂で色付いた庄内平野の光景はとても雄大でした。



2002年(平成14年)7月「第5回蔵王温泉こまくさツアーマーチ」で蔵王温泉を訪れ、高山植物の女王こまくさ(鉢植え)と保存の蔵王の雪で歓迎されました。ゲレンデのコースを歩いた後は奥羽三高湯でお肌に磨きをかけました。

山形の味は東京駅で駅弁を買い、思い出しています。写真下は「どまん中」で牛肉と海鮮がセット(1450円)になっている寅次郎大好物の駅弁です。



映画の寅さん、1975年(昭和50年)12月公開の第16作「男はつらいよ 葛飾立志編」で山形県寒河江に登場しています。寅さんから毎月仕送りが届くので

寅さんを父親と勘違いした女学生 順子（桜田淳子）が山形からとらやを訪問します。順子は寅さんが旅先でお世話になった「おゆき」の娘です。毎月お礼のお金を送っていた寅さんの人情味には感心します。

「おゆき」が無学で男にだまされたと知り「己を知るため」と学問を志す寅さんです。とらやには考古学を学ぶ美しい礼子（榎山文枝）が下宿して寅さんの家庭教師になります。めがねをかけ、本を抱える寅さんの姿が可愛いです。寅さん、順子は上司の鬚の教授と結婚すると勘違いして柴又を出ます。妹さくら、勘違いを伝えようと寅さんを追いかけますが、間に合わず。

鬚の教授も淳子にふられて旅に出て、西伊豆で寅さんと再会します。

「去年は後悔と反省の日々・・・」といつもの寅さんからの年賀状がとらやに届いて幕です。

聖火は秋田県へ引き継がれます。



## 〔秋田県〕 2020年6月9日～10日

聖火リレーコースは6月9日 湯沢市～秋田市、10日 潟上市～鹿角市です。

寅次郎、2004年（平成16年）9月「第6回瑠璃色ロマン・神秘の田沢湖ツーデーマーチ」で田沢湖町を訪問しています。豊かな大自然と温泉に恵まれ日本一深い田沢湖と高原の清風を受けながら歩きました。翌年は町村合併で仙北市となるそうで、田沢湖町としては最後の大会とのことでした。

横浜駅からの夜行高速バスで朝到着のため、大会1日目の40キロは避け、田沢湖一周の「伝統ヒロインコース」24キロを選択。田沢湖には辰子姫伝説があることを知りました。美しい娘辰子はその美しさを永久に保ちたいと秘かに観音様に願をかけ、泉の水を飲めば願いがかなうとのことのお告げで、泉の水を腹ばいになって枯れよと飲み続け、龍に変身、湖底深くに沈んでしまったとのこと。

「欲張って過大な願望をお願いしたため」と勝手に解釈した寅次郎です。その後、辰子龍は恋仲になった八郎潟の主の八郎太郎と一緒に過ごす発展家だったそうです。そのため田沢湖は凍らないとか。

写真下は何故か金色に輝いている「たつこ像」です。瑠璃色（藍色に近い色だそうです）やコバルトブルーと日の光で色が変化する湖面と湖畔の大自然の

秋田杉・ぶな・桜・栗・色づき始めた「ナナカマド」などに大感激の寅次郎です。

夜は近くの水沢温泉郷のぶな林に囲まれた静かな宿、単純硫化水素の温泉で疲れを癒しました。夕食は名物きりたんぼ鍋に舌鼓をうちました。



2日目は「草原パノラマコース」で秋田駒ヶ岳と秋田こまちが実った田を眺めながらの高原ウォークです。コース脇の親切なお宅から差し入れていただいた大粒生プルーンは美味しかったです。秋田市から一人で参加のマラソンママさんと一緒に歩きました。先週の田沢湖マラソンにはおばあちゃんのお祝で参加出来ず、悔しくてウォーキングは初めてだが30キロに挑戦するとのユニークな参加動機。20キロの分岐で完歩を祈って「さよなら」しました。

夕方、完歩出来たとの報告がありました。大会役員の手作りのススキのゲートをくぐりゴールすると栗のプレゼント。手つかずの自然があふれる秋空の下のさわやかウォークで、全国大会で知りあった東北のマドンナたちとの再会もありました。帰りは新幹線「こまち」で東京駅へ、参加記念品は美人を育てる田沢湖秋田こまち（2合）でした。

映画の寅さん、1985年（昭和60年）8月公開の第35作「男はつらいよ 寅次郎恋愛塾」で鹿角に登場しています。内容は寅さん歩 聖火リレー-7 長崎県をご参照ください。

聖火は青森県へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝